

令和7年度 第4回 富塚小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年1月30日（金）14時00分～15時25分
- 2 開催場所 富塚小学校 会議室
- 3 出席委員 吉原 忍、鈴木 秀俊、萩原 孝英、久保田 智彦、マイヤーズ ツヨシ
甲斐 進一、平出 裕美子、鈴木 敦子
- 4 欠席委員 鈴木 佐知
- 5 オブザーバー 柴田 功洋（富塚協働センター）、小楠 佳子（地域代表）
- 6 学 校 村松 一彦（校長）、古宮 康子（教頭）、池内 伸彰（教務主任）
新田 久美子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 新田 久美子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、吉原会長が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 令和7年度学校評価の結果と考察、改善案
- (2) 来年度の学校運営の基本方針の概要説明
- (3) 学校運営協議会の自己評価について

11 会議記録

司会の教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和7年度学校評価の結果と考察、改善案

議長の指示により、教務主任から別紙資料に基づき令和7年度学校評価の結果と考察、改善案について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ いじめの認知件数について、これはどのようにして発見されたものか。（萩原委員）
→保護者または児童からの訴えによるものが多い。（校長）
- ・ 発見できなければ対策できないが、言われないと発見できないのか。見つけることは難しいのか。（萩原委員）
→教員も気をつけているが、ずっと張り付いているわけにいかないので発見することはなかなか難しい。特にSNSによるいじめは、保護者や本人からの申し出がないと分からない。（校長）

- ・ いじめについて、見守りが必要となった児童へはどのような指導をされているのか。（久保田委員）
 - 取組中の件についてはある程度定期的に児童への確認を行っている。（校長）
- ・ 学校評価の結果で、粘り強く集中して学習に取り組んでいるか、夢や目標に向かって粘り強く取り組んでいるかの項目や、コミスク関連の項目で保護者の評価が低いことが気になる。子供と先生の評価は高くギャップがある。これはなぜか。（久保田委員）
 - 保護者の方が「そう思う」「だいたいそう思う」の基準が高いかもしれない。（校長）
 - 子供は家と学校で見せる顔が違うということがあるかもしれない。子供に対する評価が、学校の先生と親で全然違うということはよくある。（甲斐委員）
 - 学校がこれだけ頑張っているいろいろやってくれているということを、保護者が知ろうとしないとなかなか情報をキャッチできない。家で自分の子供しか見ていないと分かりにくい。保護者の意識の問題もあると思う。（鈴木秀俊委員）
- ・ 親子面談はどのように行っているのか。（平出委員）
 - 4月と10月は全家庭対象、2月は希望者を対象に面談を行っている。（校長）
- ・ 保護者が学校に来る機会がなかなかない。例えばクラブ活動などを保護者が見に来られるとよいのではないか。学校から見に来てもらえばよいと発信してもらえると来やすい。保護者が学校に来ることが増えれば子供たちの様子も分かって、評価が上がることにつながるかもしれない。（吉原会長）
- ・ 人の出入りの自由と防犯対策にはどうしても矛盾が生じると思うが、どのようになっているか。（鈴木秀俊委員）
 - 現在は門を閉めることと防犯カメラの設置で対応している。（校長）
- ・ いろいろな保護者が自由に出入りするのはいいか。学校ではどのように受け止められるのか。（鈴木秀俊委員）
 - 現在、引き渡し訓練の方法を変えようと検討している。引き渡し時にどれだけその子の関係者と認識できるかということが問題となっている。そこで、おうちの方に引き取り者カードにサインしてもらっておいて、それを持っている人に引き渡すという方法に変えようとしている。同じような方法で保護者の名札を作るというやり方もある。ICカードを使用することができればそれが一番よいかもしれない。（校長）
- ・ 保護者の方々にはコミスクはどのくらい理解していただいているのか。コミスクの認知度がもっと上がってほしい。（久保田委員）
 - この学校のコミスクの活動は多い。もっと認知されるとよいと思っている。（校長）
 - コミスクのコーディネーターは3年ごとに新しい人を入れる。引き受けてくださる方はいるが、その方たちは最初コミスクとは何かが分からないため、その説明から始めなくてはいけない。先にもっと認知されているとよいと思う。（鈴木敦子委員）
- ・ 先程、保護者が名札を持つという話があったがこれはよいことだと思う。持っていればそれが学校への入場パスということになる。必ずしもIDカードでなくてもよいので名札を作ってみてはどうか。（萩原委員）

→その通りだが、持っていない人はどうするか、祖父母などにも配付するのかななどの問題がある。しかし検討はしてみたい。（校長）

- ・昨年10月から浜松市の人権擁護委員を務めている。西小学校で1、4年生を対象に「人権教室」を行っている。啓発のDVDを見たあと意見交換やグループディスカッションをするという内容。富塚小でも希望があれば対応することが可能なのでお知らせいただければと思う。（鈴木秀俊委員）

（2）来年度の学校運営の基本方針の概要説明

議長の指示により、校長から来年度の学校運営の基本方針の概要について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・合理化できるところはどんどんして、本来行いたい業務に時間を使えるようになるとよいと思う。（鈴木秀俊委員）

（3）学校運営協議会の自己評価について

議長の吉原会長から、学校運営協議会の自己評価について説明があり、来年度の目標設定について委員からは以下の発言があった。

- ・情報発信が足りていないと感じる。それぞれの立場で発信はしているが、全体に発信できる場を設けるなどして保護者への意識づけをしていく必要があると思う。（鈴木敦子委員）
- ・PTA活動をしていく中で保護者から求められるのは安心・安全。PTAでもこれからそこについての情報発信などをしていく予定だが、この場でも子供たちの安心・安全について議論ができればよいと思う。（甲斐委員）
 - 安心とは何の安心？（鈴木秀俊委員）
 - 保護者の話を聞いていると、学校生活の中で自分の子供が言葉や暴力で傷つけられないことを指しているのだと思う。（甲斐委員）
- ・学校評価にも表れていたが、学校、児童と保護者との認識のギャップをいかに埋めるかが課題である。伝えるための努力も必要であるし、保護者側もアンテナを高くする必要がある。（鈴木秀俊委員）
- ・学校運営協議会をもっと開かれたものにできないか。意見を言いたい人が自由に来て意見を言うことは難しいか。（鈴木秀俊委員）
 - 傍聴人として参加することは可能だが、傍聴人は発言できないことになっているので、自由に意見を言うのは難しい。（校長）
- ・来年度の目標は学校、地域、保護者への広い情報発信ということでよいと思う。（吉原会長）

続いて委員から以下の発言があった。

- ・ロング昼休みの見守りボランティアは来年度も継続するという認識でよいか。（久保田委員）

→来年度も継続する予定。1月から見守りボランティアの活動を始めたが、実際に立ってみて気づいたことなど御意見をいただければ来年度の活動に生かしていきたいと考えている。4月からは地域や保護者への募集もしていきたい。（鈴木敦子委員）

- ・4年生の図工の授業でのこぎりを使用した学習を行う。現在4年生の保護者を対象に学習支援ボランティアを募集しているが参加される方が少ないので、都合のつく方がいらっしゃればお知らせいただきたい。（鈴木敦子委員）

オブザーバーからは以下の発言があった。

- ・コミスクの活動は現在では浸透していて当たり前になっている。そのため保護者に認知されにくいのではないか。以前いつ行ってもいい参観会というのがあったが、保護者が気軽に学校の様子を見る機会があるとよいと思う。（小楠さん）
- ・協働センターに来る子供たちはみんな率先して元気に挨拶をしてくれる。これは日頃教職員のみなさんが頑張ってくださっている成果だと思う。今年度協働センターの子ども講座で謎解きゲームを行った。子供たちをランダムにチーム分けしたが、友達同士で固まったりせずチームで協力してクイズを解いて楽しそうに参加してくれた。このような機会をこれからも増やしていきたい。（富塚協働センター 柴田所長）

報告

○夢育やらまいかCS加算分の報告

教頭から、夢育やらまいかCS加算分について報告があった。

その他報告事項

司会から、次年度1回目の会議は、令和8年4月28日（火）13時30分から富塚小学校会議室で開催する旨の報告があった。

また、会長、副会長の任期が今年度で終了するため、来年度から交代となる旨の報告があった。